

# CASBEE<sup>®</sup> あいち

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き | 使用評価ソフト: CASBEE-BC\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	県営橋爪住宅	階数	地上7階
建設地	愛知県犬山市大字橋爪字石畑35番地3	構造	RC造
用途地域	第一種住居地域	平均居住人員	168人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2028年8月 予定	評価の実施日	2026年3月10日
敷地面積	4,589㎡	作成者	井上 隆之
建築面積	522㎡	確認日	2026年3月17日
延床面積	2,962㎡	確認者	廣瀬 高保



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO <sub>2</sub> (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p><b>BEE = 2.0</b> ★★★★★</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p>	<p>☆☆☆☆☆</p> <p>標準計算</p> <p>①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外のオンサイト手法 ④上記+オフサイト手法</p> <p>100% 54% 54% 54%</p> <p>(kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q1 室内環境</p> <p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>LR1 エネルギー</p> <p>LR3 敷地外環境</p> <p>LR2 資源・マテリアル</p>

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p><b>Q 環境品質</b> Qのスコア = 3.2</p>		
<p><b>Q1 室内環境</b> Q1のスコア = 4.1</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b> Q2のスコア = 2.6</p>	<p><b>Q3 室外環境(敷地内)</b> Q3のスコア = 2.7</p>
<p><b>LR 環境負荷低減性</b> LRのスコア = 3.8</p>		
<p><b>LR1 エネルギー</b> LR1のスコア = 4.3</p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b> LR2のスコア = 3.5</p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b> LR3のスコア = 3.6</p>

3 重点項目		
<p>①地球温暖化への配慮</p> <p>4.8</p>	<p>③敷地内の緑化</p> <p>2.0</p>	<p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p>30.0%</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p>0.0%</p>
<p>②資源の有効活用</p> <p>3.0</p>	<p>④地域材の活用</p> <p>1.0</p>	<p>&lt;外装材に使用した地域性のある材料&gt;</p> <p>なし</p> <p>&lt;建物の構造材・内装材・外構に使用した地域性のある素材&gt;</p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用  
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化  
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積(建築面積及び附属物面積)}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き  
県営橋爪住宅

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

スコアシート		実施設計段階		独自基準		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点項目	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数		
<b>Q 建築物の環境品質</b>												<b>3.2</b>
<b>Q1 室内環境</b>												<b>4.1</b>
<b>1 音環境</b>												<b>2.7</b>
1.1 室内騒音レベル												3.0
1.2 遮音												3.0
1 開口部遮音性能												3.0
2 界壁遮音性能												3.0
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)												3.0
4 界床遮音性能(重量衝撃源)												3.0
1.3 吸音												3.0
<b>2 温熱環境</b>												<b>5.0</b>
2.1 室温制御												5.0
1 室温												5.0
2 外皮性能												5.0
3 ゾーン別制御性												5.0
2.2 湿度制御												5.0
2.3 空調方式												5.0
<b>3 光・視環境</b>												<b>3.5</b>
3.1 昼光利用												3.0
1 昼光率												3.0
2 方位別開口												3.0
3 昼光利用設備												3.0
3.2 グレア対策												4.0
1 昼光制御												4.0
3.3 照度												3.0
3.4 照明制御												3.0
<b>4 空気質環境</b>												<b>4.3</b>
4.1 発生源対策												5.0
1 化学汚染物質												5.0
4.2 換気												3.3
1 換気量												3.0
2 自然換気性能												3.0
3 取り入れ外気への配慮												3.0
4.3 運用管理												3.0
1 CO <sub>2</sub> の監視												3.0
2 喫煙の制御												3.0
<b>Q2 サービス性能</b>												<b>2.6</b>
<b>1 機能性</b>												<b>2.4</b>
1.1 機能性・使いやすさ												2.0
1 広さ・収納性												3.0
2 高度情報通信設備対応												2.0
3 バリアフリー計画												3.0
1.2 心理性・快適性												3.0
1 広さ感・景観 (天井高)												3.0
2 リフレッシュスペース												3.0
3 内装計画												3.0
1.3 維持管理												3.0
1 維持管理に配慮した設計												3.0
2 維持管理用機能の確保												3.0
<b>2 耐用性・信頼性</b>												<b>2.9</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振												3.0
1 耐震性(建物のこわれにくさ)												3.0
2 免震・制震・制振性能												3.0
2.2 部品・部材の耐用年数												3.1
1 躯体材料の耐用年数												5.0
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔												2.0
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔												3.0
4 空調換気ダクトの更新必要間隔												3.0
5 空調・給排水配管の更新必要間隔												4.0
6 主要設備機器の更新必要間隔												2.0
2.4 信頼性												2.6
1 空調・換気設備												3.0
2 給排水・衛生設備												3.0
3 電気設備												3.0
4 機械・配管支持方法												3.0
5 通信・情報設備												2.0

<b>3 対応性・更新性</b>			0.2	3.0	0.29	2.6	2.6	1.00	2.6
3.1 空間のゆとり			-	-	-	2.2	2.2	0.50	
1 階高のゆとり			-	3.0	-	-	3.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ			3.0	3.0	-	-	1.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			3.0	3.0	-	-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			1.0	3.0	1.00	-	-	-	
1 空調配管の更新性			-	3.0	0.17	-	-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	3.0	0.17	-	-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22	-	-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.22	-	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	-	0.30	-	-	-	2.7
1 生物環境の保全と創出			独自③	2.0	0.30	-	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			独自④	3.0	0.40	-	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	3.0	0.30	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			独自④	3.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				3.0	0.50	-	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>									3.8
<b>LR1 エネルギー</b>					0.40	-	-	-	4.3
1 建物外皮の熱負荷抑制				日本住宅性能表示基準「5-1」断熱等性能等級」における等級5	3.0	5.0	0.33	-	5.0
2 自然エネルギー利用					3.0	3.0	0.17	-	3.0
3 設備システムの高効率化				BEI=0.78	3.0	5.0	0.33	-	5.0
4 効率的運用					0.1	3.0	0.17	-	3.0
集合住宅以外の評価					-	-	-	-	
4.1 モニタリング					3.0	3.0	-	-	
4.2 運用管理体制					3.0	3.0	-	-	
集合住宅の評価					1.0	3.0	1.00	-	
4.1 モニタリング					-	3.0	0.50	-	
4.2 運用管理体制					-	3.0	0.50	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>					-	0.30	-	-	3.5
1 水資源保護					0.1	4.0	0.15	-	4.0
1.1 節水				節水型洋風大便器を使用	3.0	4.0	0.40	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					0.6	4.0	0.60	-	
1 雨水利用システム導入の有無				雨水貯留槽を設置し、植栽の散水に利用	3.0	4.0	1.00	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無					3.0	3.0	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減					0.6	3.1	0.63	-	3.1
2.1 材料使用量の削減					-	2.0	0.07	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用					-	3.0	0.24	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用					-	3.0	0.20	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			②	砕石・再生クラッシュラン	3.0	3.0	0.20	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			独自		3.0	2.0	0.05	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			独自	分別が容易な内装(パネル工法)を採用	3.0	4.0	0.24	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避					0.2	4.3	0.22	-	4.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	3.0	0.32	-	
3.2 フロン・ハロンの回避					0.6	5.0	0.68	-	
1 消火剤					-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)				ODP=0 GWP=1 の発泡剤を用いた断熱材を使用	-	5.0	1.00	-	
3 冷媒					3.0	-	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>					-	-	0.30	-	3.6
1 地球温暖化への配慮			①	ライフサイクルCO2排出率54%	-	4.8	0.33	-	4.8
2 地域環境への配慮					0.3	3.0	0.33	-	3.0
2.1 大気汚染防止					-	3.0	0.25	-	
2.2 温熱環境悪化の改善					-	3.0	0.50	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制					0.2	3.2	0.25	-	
1 雨水排水負荷低減			独自		-	3.0	0.25	-	
2 汚水処理負荷抑制			独自		-	3.0	0.25	-	
3 交通負荷抑制			独自	適切な設置台数、介護者専用駐車場の設置	-	5.0	0.25	-	
4 廃棄物処理負荷抑制					-	2.0	0.25	-	
3 周辺環境への配慮					0.3	3.0	0.33	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					0.4	3.0	0.40	-	
1 騒音			独自		-	3.0	1.00	-	
2 振動			独自		-	-	-	-	
3 悪臭					-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制					0.4	3.0	0.40	-	
1 風害の抑制					-	3.0	0.70	-	
2 砂塵の抑制					-	3.0	-	-	
3 日照阻害の抑制					-	3.0	0.30	-	
3.3 光害の抑制					0.2	3.0	0.20	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策					-	3.0	0.70	-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策					-	3.0	0.30	-	

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE:建築(新築)2016年版+あいち版手引き

県営橋爪住宅

■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>4.8</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.8	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>3.0</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.0	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.1	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>2.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	外構緑化:30%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>		(評価ポイント)		<b>1.0</b>
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

## ■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 県営橋爪住宅

計画上の配慮事項	
総合	既設2棟を1棟建に集約した計画です。周辺への環境に配慮した配置とし、敷地内は積極的な緑化を推進しました。また、構造躯体等において劣化対策等級3を確保し、耐用年数の高い建築としました。
Q1 室内環境	内装は全面的にF☆☆☆☆、特記仕様書によりホルムアルデヒド以外のVOC使用制限を規定しシックハウス対策を徹底しました。高度な断熱性能と適切な換気計画に加え、集合住宅として必要な遮音性能を確保し、住環境と健康に配慮しました。
Q2 サービス性能	躯体の劣化対策等級3の品質を確保しました。共用部のバリアフリー化に加え、住戸内のトイレや脱衣室への手すり設置など、高齢者に配慮した設計を行っています。また各住戸にTEL・TVアウトレットを標準設置しています。
Q3 室外環境(敷地内)	駐車場の車止め先や児童公園を芝張りにするなど緑化に努め、子供の利用と環境に配慮しました。歩道・駐車場は透水性舗装としました。
LR1 エネルギー	採光、通風を考慮し住戸の南北2方向を外気に面した配置としました。環境対策として共用部照明器具はLEDタイプを採用しました。
LR2 資源・マテリアル	将来の改修を見据え、躯体と仕上げ材が容易に分別可能な設計としました。土間及び基礎下には再生砕石(RC40材)を使用しました。散水用の貯水タンクを設置し、雨水の有効利用システムを構築しました。
LR3 敷地外環境	介護者専用駐車スペースを確保しました。分別集積可能なスペースのあるごみ置き場を設置しました。
その他	